６月

美園小だより

令和 7年５月３０日
さいたま市立美園小学校
第１７９号 児童数 １０４５名
Tel 048(812)6611
Fax 048(878)6660

一人ひとりの個性を大切にする

校　長　　河 野　秀 樹

＜対話の時間＞

「こんにちは。ぼく、ドラえもんです」と、誰もが真似をするドラえもんの声優を26年間務め、昨年９月に亡くなられた大山のぶ代さんは著書でこう述べています。「思えば生まれつきのこの声のため、自分では気づかなかったけれど、笑われたりいたずらの対象になったりしてきた」「私がなにかを言うと、みんなが笑うの…。声がおかしいって、ヒソヒソみんなで私のほうを見ながら笑うの…」このように、自分と違うことは普通でないと考え、それを面白おかしく茶化す行為は、大山さんが子どもの頃からありました。のぶ代さんの母の言葉が心に響きます。「目でも、手でも、足でも、そこが弱いと思って、弱いからといってかばってばかりいたら、ますます弱くなっちゃうのよ。弱いと思ったら、そこをドンドン使いなさい」その言葉のおかげで、何のコンプレックスもなく、元気にのびのび大声で中学校時代を過ごしたといいます。

ドラえもんの漫画には、「ぼくよりダメなやつがきた」という話があります。のび太の学級に、一人の男の子が転入して来ます。のび太は自分よりできないことが多いその子のことを見下して、喜んでいました。そこで、ドラえもんは「配役いれかえビデオ」を使って、のび太が転入生にしたことを見せて考えさせます。すると、のび太は転入生のことを助けてあげるようになります。折角友達になれたその子は「今まで君ほど仲良くしてくれた友達はなかった。勉強やスポーツを一緒にやってくれたり、時にはいじめっ子からかばってくれたり…」と言って、また転校してしまいました。

今の時代、いじめは陰湿さや継続性が問われるのでなく「嫌だ」「やめてほしい」と思った言動をしたことを「いじめ」としてとらえ対応しています。６月は美園小の「いじめ撲滅強化月間」です。講話朝会の中で、「自分がされて嫌なことは、人にしない。言わない」また、「人という字はどっちのつっかえ棒を取っても立ってはいられない。お互いが支え合っている。誰とでも共に生きていくためにはどうしたらよいだろうか」と、問いかけていきたいと思います。また、各学級でも、朝学習の「対話」で様々な意見交換をして考えを深め、学級活動でいじめについて理解し、未然防止のための取組を考えていきます。御家庭でも、お子さんと一緒に対話しながら考えてみてはいかがでしょうか。

大山さんは、次のようなことも述べています。「私たち大人、人生の先輩が、自分の持っているもの、身についているいろいろな知識、心、そんなことを、これから成長していく小さな子どもたちに正しく伝えたい。それを伝えるためのパイプになりたい。きれいな言葉、ご挨拶、やさしい心、人への気遣い、たくさんある。それがドラえもんの中で、悪い言葉は使わないということ」だと。

参考：「ぼく、ドラえもんでした。」　大山のぶ代　小学館文庫